



明白な要素が後置されている例

藤井(1995)より

- どこかのおじさんがやってたんだと思うんです。私。
- (聞き手の父親の話をしている最中に) おいくつだったの、お父様。
→発話現場にいる聞き手の年を聞いているとも解釈できるので、倒置文にして「お父様」と付け加えた。
- すっごい精神力の強い人なんですね、あの人は。
- 口からでまかせなんです、あれ。
→いずれも強調の機能を持っているとみられる。省略可能であるのに出現しているには、何らかの理由があるはず。



代名詞・指示詞の後置

日本語は主観性が高いので、ゼロ代名詞が用いられる。
後述するGundelたちの考えでは、英語で話しの中心になっている人やものは焦点化(in focus) されて、代名詞で表示されるとされる。

英語では代名詞や指示詞を後置した文はおかしな文になる。

- *Is that true, that/it?
- 本当なの、それは。(藤井)

- He is stupid, that bastard.
- 馬鹿だよ、あいつは。
→英語の倒置文では、むしろぼろくそに言うなどの意味が付け加えられる。



代名詞・指示詞の後置

- 日本語ではゼロ代名詞が焦点化されている場合に用いられる。
- 英語では代名詞が焦点化されている場合に用いられることから、強調する場合にはそれより意識する表現を用いなければならない。



- 日本語では明示代名詞や指示詞で十分であるが、英語では不十分ということになる。